

第2期鎌倉食育推進計画 指標及び評価						第3期鎌倉食育推進計画 指標（案）				
取り組みの柱	第2期鎌倉食育推進計画 指標	計画策定時（H23）	目標値	直近値※1	改善状況※2 （目標値と直近値を比較）	第3期鎌倉食育推進計画 指標（案）	第2期計画からの変更点等	国の目標値	市の目標値	計画策定時（H28）市の現状値
食をとoshた健康づくり	(1)朝食を毎日摂取する市民の割合の増加	幼児児：99.2% 小学生：96.1% 中学生：92.3% 16～19歳：データなし 青年期：75.0% 壮年期：80.2% 高年期：94.0%	中学生以下：100%に近づける 20・30歳代：90%に近づける 40歳以上：100%に近づける	幼児児：99.3%（↑） 小学生：97.8%（↑） 中学生：91.6%（↑） 16～19歳：82.1% 青年期：81.5%（↑） 壮年期：91.9%（↑） 高年期：95.9%（↑）	A	(1)朝食を毎日摂取する市民の割合の増加（★）※3	継続	100%	これから設定します。	幼児児：99.3% 小学生：97.8% 中学生：91.6% 16～19歳：82.1% 青年期：81.5% 壮年期：91.9% 高年期：95.9%
						(2)朝食を毎日摂取する子ども・若い世代の割合の増加	表現を一部変更	85%以上		青年期：81.5%
	(2)栄養バランス等に配慮した食生活を送っている市民の割合の増加	【参考】 幼児児：70.4% 小学生：データなし 中学生：データなし 16～19歳：データなし 青年期：65.0% 壮年期：65.4% 高年期：60.3%	80%に近づける	幼児児：48.0% 小学生：51.0% 中学生：51.6% 16～19歳：28.4% 青年期：40.7% 壮年期：45.2% 高年期：65.3%	（調査方法が異なるため、比較不可）	(3)主食・主菜・副菜をそろえるなど、栄養バランスを考えて食事をとっている市民の割合の増加（★）	表現を一部変更	70%以上		幼児児：48.0% 小学生：51.0% 中学生：51.6% 16～19歳：28.4% 青年期：40.7% 壮年期：45.2% 高年期：65.3%
						(4)主食・主菜・副菜をそろえるなど、栄養バランスを考えて食事をとっている若い世代の割合の増加	表現を一部変更	55%以上		青年期：40.7%
	(3)内臓脂肪症候群（メタボリックシンドローム）の予防や改善のための適切な食事、運動等を継続的に実践している市民の割合の増加	なし	50%以上	青年期：21.5% 壮年期：20.4% 高年期：36.1%	C	(5)生活習慣病の予防や改善のために、ふだんから適正体重の維持や減塩等に気をつけた食生活を実践する市民の割合の増加	表現を一部変更	75%以上		青年期：53.6% 壮年期：55.9% 高年期：74.1%
食をとoshた人づくり	(4)よく噛んで味わって食べるなどの食べ方に関心のある市民の割合の増加	なし	80%以上	幼児児：39.8% 小学生：52.2% 中学生：32.6% 16～19歳：25.4% 青年期：40.2% 壮年期：39.3% 高年期：56.5%	C	(6)ゆっくりよく噛んで食べる市民の割合の増加	表現を一部変更	55%以上		【参考】 幼児児：39.8% 小学生：52.2% 中学生：32.6% 16～19歳：25.4% 青年期：40.2% 壮年期：39.3% 高年期：56.5%
	(5)朝食又は夕食を家族と一緒に食べる「共食」の回数の増加	【参考】 夕食を家族の誰かと一緒に食べるこどもの割合 小学3年生 97.7% 小学6年生 97.8% 中学2年生 94.2% 中学3年生 94.7%	週平均 10回以上	幼児児：13.3回 小学生：12.5回 中学生：11.2回 16～19歳：9.9回	B	(7)朝食又は夕食を家族と一緒に食べる「共食」の回数の増加（★）	継続	11回以上		幼児児：13.3回 小学生：12.5回 中学生：11.2回 16～19歳：9.9回
	(6)農水産業体験を経験した市民の割合の増加	【参考】 公立保育園100%（H22） 公立小学校100%（H21） 公立中学校67%（H21） 16～19歳：データなし 青壮高年期：データなし	30%以上	幼児児：68.5% 中学生：77.2% 16～19歳：79.1% 青年期：71.4% 壮年期：69.1% 高年期：47.6%	A	(8)農水産業体験を経験した市民の割合の増加	継続	40%以上		幼児児：68.5% 中学生：77.2% 16～19歳：79.1% 青年期：71.4% 壮年期：69.1% 高年期：47.6%
						(9)地域や家庭で受け継がれてきた伝統的な料理や作法等を継承し、伝えている市民の割合の増加	新規	50%以上		16～19歳：23.9% 青年期：44.2% 壮年期：53.8% 高年期：53.1%
						(10)地域や家庭で受け継がれてきた伝統的な料理や作法等を継承している若い世代の割合の増加	新規	60%以上		青年期：44.2%
食をとoshた地域づくり	(7)地元産（県内産を含む）食材の使用割合の増加	16～19歳：データなし 青年期：17.5% 壮年期：19.8% 高年期：32.8%	30%以上	16～19歳：1.5% 青年期：13.6%（↓） 壮年期：12.8%（↓） 高年期：17.7%（↓）	C	(11)地元産（県内産を含む）食材の使用割合の増加	継続	（学校給食における使用割合） 30%以上		16～19歳：1.5% 青年期：13.6% 壮年期：12.8% 高年期：17.7%
	(8)食育の推進に関わるボランティアの数の増加	612人	700人以上	573人（↓）	C	(12)食育の推進に関わるボランティアの数の増加	継続	37万人 （第2次から変更なし）		573人
食をとoshた環境づくり	(9)消費期限や賞味期限などの食品表示や、食中毒の予防などの食品の安全性について関心をもっている市民の割合の増加	中学生：データなし 16～19歳：データなし 青年期：57.5% 壮年期：63.0% 高年期：80.2%	90%以上	中学生：56.7% 16～19歳：44.8% 青年期：43.7%（↓） 壮年期：47.8%（↓） 高年期：59.2%（↓）	C	(13)食の安全性について基礎的な知識を持ち、自ら判断することができる市民の割合の増加	表現を一部変更	65%以上		中学生：74.4% 16～19歳：56.7% 青年期：72.6% 壮年期：79.6% 高年期：78.9%
	(10)日常生活の中で、ごみの発生抑制に取り組む市民の割合の増加	全年代合計：82.6%	85%以上	16～19歳：70.1% 青年期：74.6% 壮年期：82.8% 高年期：90.5%	B	(14)食品ロス削減のために何らかに取り組んでいる市民の割合の増加	表現を一部変更	80%以上		16～19歳：79.1% 青年期：87.4% 壮年期：93.5% 高年期：88.4%

※1 計画策定時と直近値との数値の比較ができるものはカッコ内に矢印で表現しています。

※2 目標値を達成したものは「A」、目標値を一部達成したものは「B」、目標値を達成できなかったものは「C」としています。

※3（★）は鎌倉市健康づくり計画の「食生活・栄養」の評価指標と同じものです。